

道東3管内博物館施設等連絡協議会巡回展

道東の博物館園が選ぶ イチオシの資料・風景



釧路・根室・十勝の3管内の博物館施設などが協力し、それぞれの館のお宝と貴重な風景写真を集めた巡回展を開催中です。郷土館からも2点の写真を出展しています。

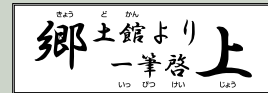
見学無料です。お気軽にご来場ください。

開催期間：6月6日(月)まで

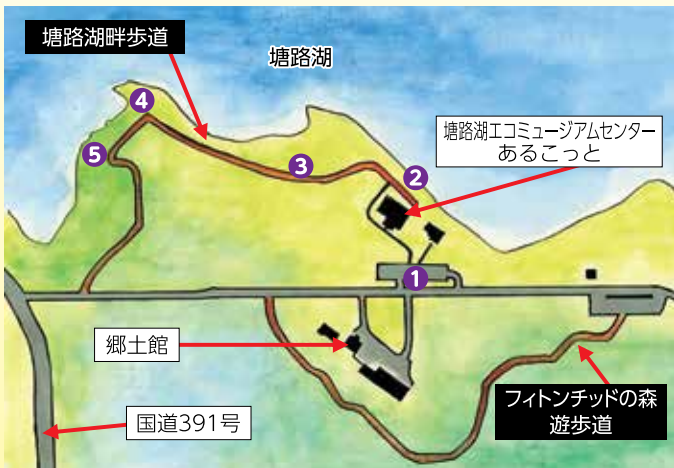
会場：開発センター

大川のほとり

—郷土館だより(第70号)—
☎487-2332
開館時間
午前9時30分～午後4時30分



標茶に住んでいると、塘路地域は近すぎるが故になかなか立ち寄ることがないと聞きます。湿原観光の玄関口でもある塘路は、さまざまな散策スポットが充実しています。この機会にぜひ、遊びに来てください。(坪)



初夏の自然観察



「塘路湖畔歩道」をご紹介します

穏やかな日差しとともに深緑の映える初夏、少し足を延ばして自然を感じてみませんか？今回は塘路湖畔を巡るのんびり散策路をご紹介します。塘路湖畔歩道は、平成26年に環境省によって作られた新しい遊歩道です。全周600mで、塘路湖畔沿いを歩くコースとなっています。

各ポイントには自然や歴史の解説看板、休憩ベンチなどがあり、40分ほどで回ることができます。遊歩道は砂を固めた特殊な構造となっており、足にやさしく、車いすでの乗り入れも可能です。また、この遊歩道と連結しているフイトンチッドの森遊歩道では、湖畔沿いとは違う自然環境を楽しむことができます。



2 塘路湖を望む展望スペース

- 1 全体案内看板…この遊歩道は順路に関係なく楽しむことができますが、看板の説明順では塘路湖エコミュージアムセンター前駐車場が入口になっています。
- 2 塘路湖を望む展望スペース…湖面に広がるヒシやエゾノミズタデなどが観察できます。
- 3 塘路パークゴルフ場を横目に見ながら、なだらかな道が続きます。夏にはたくさんのクロイトトンボをはじめ、多くの昆虫が観察できる場所です。
- 4 野鳥の展望スペース…湖の西側を一望できる場所でガンカモ類などの水鳥を観察できます。運が良ければ「空飛ぶ宝石」と称されるほど美しい体色を持つカワセミにも出会えます。

標茶から消えてしまった生き物たち

“屋根のない博物館”とも呼ばれ、豊かな自然環境とさまざまな動植物が生息する本町。しかし、かつて本町で目撃情報が記録されながら、現在は絶滅してしまった動物も数多くいます。本町の絶滅種を証言とともにご紹介します。

「ニホンカワウソ」(日本川獺：日本全土に幅広く生息。北海道では昭和20年代に絶滅)

今回は昭和39年に日本の天然記念物に指定されたものの、平成24年には絶滅種に指定されてしまったニホンカワウソをご紹介します。ニホンカワウソはかつて日本中に広く生息し、北海道では礼文島を含む道内全域で見られました。主に川辺や磯などにいた夜行性の哺乳類で、大陸に現在も生息しているユーラシアカワウソの亜種に分類されています。

大きさは体長65～80cm、尾長35～50cm。中型犬と同じくらいで、道内で見られるイタチやミンクスの2倍ほどの大きさでした。現在、北海道にいたニホンカワウソは、本州のニホンカワウソとは異なる別亜種、または独立した別種との考え方が有力ですが、残念ながら本州のカワウソよりも早く絶滅してしまったことから、資料に乏しく詳細は分かっていません。

ニホンカワウソが絶滅に至った原因はいくつかありますが、主に毛皮を手に入れるための乱獲だったと考えられています。本州では昭和50年代半ばに四国で目撃されたのが最後の記録とされていますが、北海道では昭和20年代に斜里町で捕獲されて以降、正確な目撃例はありません。

本町にはニホンカワウソに関する地名が残されています。塘路湖の北東にあるオモシロンベ川中流に、エサマンコタンと呼ばれる地名が記録されており「エサマン」はアイヌ語でカワウソを意味します。かつてオモシロンベ川周辺には多くのカワウソが生息していたため、カワウソの村を意味するエサマンコタンと呼ばれたそうです。なお、エサマンコタンの地名由来にはいくつかの説があり、アイヌの人々はカワウソをいたずら好きで嘘つきだとしていることから、エサマンコタンは「(カワウソのような)嘘つきの人が住む村」という説もあります。

昨年、シラルト口湖近辺でカワウソの目撃情報が郷土館に寄せられました。しかし、残念ながらミンクだったことが分かりました。かつてカワウソが生息した川辺の^{あるじ}主は、現在ミンクへと移り変わっています。

ニホンカワウソの目撃情報はたびたび四国を中心に報告されることがありますが、北海道では60年以上発見されていません。残念ながら本町で再びその姿を見られることはないのかもしれませんが。



昭和35年初版の哺乳類図鑑には、ニホンカワウソが現生種として、イラスト付きで紹介されていました。この時すでに「(棲息は)極めてまれ。香川、愛媛沿岸に生息が確認されるのみ」と説明されています。

図の引用『原色日本哺乳類図鑑』



5 ドラム缶橋：現在の国道391号線と郷土館付近を結ぶ道路は昭和40年代半ばに作られました。それ以前はドラム缶で作った浮き橋がありました。塘路駅から来た観光客は、塘路湖を浮き橋で渡って湖畔まで遊びに来ました。付近はヨシで覆われているため、多くの水鳥が羽を休めています。突然の訪問者に驚いたマガモが飛び立つ光景がよく見られます。

郷土館では遊歩道をより楽しく利用してもらえるよう、塘路歩道歴史パンフレットを無料で配布しています。興味のある方は郷土館にて一声かけてください。(部数に限りがあります)



5 ドラム缶橋